

開講科目名／Course	身体観察技術論	
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 1 学期／First	
開講区分／semester offered	1 学期／First	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	1	
主担当教員／Main Instructor	石丸 智子	
担当教員名／Instructor	秦 さと子、石丸 智子、田中 佳子、神矢 恵美、城井 理美	
必修・選択 ／compulsory subject	必修	
講義形態 ／Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	解剖生理に基づき、看護の展開につながる身体的な情報を収集する方法を学び、身体観察技術を身につけることを目的とする。人が生きていくために必要な「恒常性の維持」と「日常生活行動」を枠組みとし、各技術の背景にある原理や科学性を理解しながら技術演習を行う。	
到達目標	1. 身体観察の意義と基礎的手技（問診・視診・聴診・触診・打診）について説明ができる。 2. 正確な情報を得るために、身体観察技術を正しく実施することができる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	授業は原則2コマ続きを8回実施する（計15回） 01. オリエンテーション、身体観察の基本的手技の手順 02-03. 恒常性の維持（体温・呼吸）：体温測定、呼吸器の観察 04-05. 恒常性の維持（体液循環(1)）：脈拍測定、経皮的酸素飽和度の測定、末梢循環の観察 06-07. 恒常性の維持（体液循環(2)）：血圧測定、心音の聴取 08-09. 恒常性の維持（脳神経）：意識レベルの観察（JCS/GCS）、瞳孔の観察 10-11. 筋・骨格系：座位・立位・歩行や日常生活動作に必要な筋力と可動域 12-13. 消化器系：「食べる」「排泄する」に必要な口腔内、腹部の観察、食事介助、口腔ケア 14-15. バイタルサイン測定のまとめ ＊詳細は別途資料配布	
その他の授業の工夫	・教員による講義はオンデマンド配信とし、科目開講期間中、視聴したいときに繰り返し視聴できる。 ・自己学習力の育成、限られた時間を効率よく活用するために「事前課題」を課す。 ・事前課題は演習で使用する課題事例に関する個人ワークとe-learning（Nursing-Skills）とする。 ・演習時間内はグループ演習とし、学生同士で協力しながら課題事例に取り組むことで理解を深める。 ・いろいろな考えや視点に伴う方法の多様性を理解するために、他のグループの事例展開を共有する。 ・グループ演習の成果については、ICT（SIM System、Google Workspace）を活用して、客観的な評価と課題を明確化する。また、その内容をもとに事前課題レポートを修正し、技術の習得につなげる。 ・人が生きていくために必要な「恒常性の維持」と「日常生活行動」を観察の枠組みとし、看護を学び始めた1年次生にも理解しやすい構成としている。	
時間外学修	・事前課題：該当授業に関するNursing-Skillsの小テストを授業前日までに個人学習する。担当教員が事前に提示する課題事例に関するレポートを作成し提出する。（8h） ・事後学習：グループ演習の成果をもとにレポートを提出する。また、授業時間内でのみの学習では技術修得は困難であり時間外に反復学習が必要である。方法としてNursing-Skillsを用いて自己学習する他、事前のAppointmentにより教員による技術指導も可能である。（4h）	
評価方法と評価割合	事前・事後課題、授業態度、技術試験を総合して評価を判定する。 配点は事前課題：20%、事後課題10%、授業態度：10%、実技試験：60%とする。 実技試験6割未満、あるいは事前課題、事後課題、授業態度、実技試験の総合点が6割未満である場合は、単位認定不可とする。授業態度はグループ演習での授業参加度や学生デモンストレーションへの参加度を評価する。 原則100%出席とし、欠席・遅刻は減点対象となる。 20分の遅れは遅刻とし、それを超えると欠席として取り扱う。 また、遅刻3回で欠席1回とみなす。 ＊詳細は別途資料配布	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]（医学書院）	
参考書	フィジカルアセスメント完全攻略Book（慧文社） 日常生活行動からみるヘルスアセスメント 看護形態学の枠組みを用いて（日本看護協会出版会）	
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	秦さと子：病院の看護師 石丸智子：病院の看護師 田中佳子：病院の看護師 神矢恵美：病院の看護師 城井理美：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	看護の臨床経験を活かし、身体観察技術の原理や科学性の理解、技術の習得を促進する。	